

N部門

(知的障害教育部門)

数量概念の獲得前の教材

教材ガイド



平成27年度作成

東京都立鹿本学園

目 次

- おせんべやけたかな
- こぐまのパンやさん
- ひとつずついれたかな
- よく見て入れよう
- 両手を使ってつなげよう

～おせんべやけたかな～

対象児童・生徒

- ・「おせんべやけたかな」に合わせて左から順番に指さしをすることをねらいとしている教材です。
- ・身近な物の名前を知る教材です。

N 小2 知的障害学級

太田ステージ II ～ III - 2



ねらい

- 1対1対応を理解する。
- 左から順番に一つずつ指さしをする。
- 自分のとったおせんべいの数を数える。
- 止まったところでおせんべいをひっくり返す。
- ひっくり返して出た物の名前を答える。

- ・児童が好きなキャラクターや物をおせんべいの裏に描き、何がでてくるか期待感をもたせるようにした。
- ・主に、ショートでの国語・算数の時間に行うようにした。

教材の使い方 (指導方法)

- ・パネル台に「おせんべやけたかな」の9枚プラス1枚のおせんべいを1枚ずつ貼る。
- ・やりたい児童を募り、順番に「おせんべやけたかな」に合わせて一つずつ指さしをして、「な」で止まったらおせんべいをひっくり返す。
- ・ひっくり返したら「これは何？」と聞き、答えたらみんなに見せてもう一度「これは何ですか？」と聞き、みんなで声を合わせて答える。
- ・1枚ずつ「おせんべやけたかな」に合わせて指さしできる児童は1名なので、他の3名は教員がところどころ支援しながら行う。
- ・ひっくり返したとき、児童の好きな物がくるように配置をし、期待感をもたせるようにする。

「こぐまのパン屋さん」
～お話をしたり、聞いたりする力を育てる～
～教に興味をもつ～

対象児童・生徒

・3年5, 6組 重度重複学級の「国語・算数」（集団学習）での教材。
（個々に認識や興味・関心は異なるが、教員の語りかけに注意を向けられる。絵カードや具体物の指示で課題に取り組める。）

N 小3 重度・重複学級

太田ステージ | ~



ねらい

・興味をもち、登場動物のパネルの動きをよく見て、お話を聞く。
・課題を理解して、お皿の上に一つずつ対応させて、メロンパンを乗せる。

・「国語・算数」では、お話とそれに関連した学習（ことばや数）を組み合わせ、1学期から取り組んでいる。その流れで、「5つのメロンパン」の歌やお話を参考にして、パネルシアターを作成した。

・この教材はまだ、授業では使用していない。2学期後半に実施する。

教材の使い方 (指導方法)

○「国語・算数」での教材として使用する。

・パネルシアターで「こぐまのパン屋さん」のお話をする。（こぐまのパンやに5匹の動物がやってきて、メロンパンを買っていくという単純なストーリー）
「5つのメロンパン」の歌詞を変えて歌いながら、お話を進めていく。

・お話の後、児童1人ずつ前に出し、お皿の上に1個ずつメロンパンをのせる課題をさせる。（お皿の上にはメロンパンの絵がついている。）この課題は児童の実態に合わせて、変えていく。

ひとつずついれたかな ～じゅんばんにひとつずつ～

対象児童・生徒

・手元をよく見て、物を入れる課題から数を数える課題までの学習を行う児童のための教材です。
・1対1対応で一つずつを学習する教材です。

N 小1 重度・重複学級

太田ステージ Ⅰ ～



ねらい

- ・よく見て一つずつ入れる。
- ・数えながら、入れる。
- ・ひとつずつ順序よく入れる。

- ・筒の口にテープを貼り、分かりやすくした。
- ・透明のため、どの方向からも入っているのが見えるので少人数の学習に使用できる。
- ・底板が取り外せて収納がしやすい。

教材の使い方 (指導方法)

- ① 数を数えながら、ボールを一つずつ入れる。(5までの数の学習)
- ② 1対1対応で左から順序よく入れていく。(1対1対応の学習)
- ③ 入れる物は、児童に合わせていろいろ変えていく。
(お手玉、つみき、棒など学習によって工夫する)

よく見て入れよう ～同じ色あつめ・マトリックス～

対象児童・生徒

- ・おなじ・ちがうを見わける力を育てることを課題とする児童を対象とした教材です。
- ・日常生活で使うものの名前を学習する段階で、手指の細かい操作もまだ未発達な児童が対象です。

N 小2 知的障害学級

太田ステージ I ~ II



ねらい

- ・色の違いを見わけて同じ色の物のカードを並べることができる。
- ・色弁別ができるようになったら、モノと色・2つの要素を意識してカードを並べることができる。

- ・カードは厚みを持たせて操作しやすいようにした。
- ・プラスチック板に枠を貼ることで、プラスチック板ごと取り換えられるようにした。(コルク付ボードは学習台として使用する)

教材の使い方 (指導方法)

- ・国語・算数の個別学習の時間に使用する。



- ・色分けして並べる。
できるようになったらマトリックス課題に移行する。



両手を使ってつなげよう ～色のマッチング～

対象児童・生徒

手元を見て、両手を使って課題に取り組むのが苦手な生徒向けの教材です。

N 中2 重度・重複学級

太田ステージ II ~



ねらい

- ・左手で押さえながら、右手でかけることができる。
- ・同じ色を見て、キューブの下につなげることができる。

- ・主に自立活動の個別課題や国語・数学で使用。
- ・左手で押さえないとフックがかけられないので、両手を使って課題に取り組めるようになった。

教材の使い方 (指導方法)

色のマッチング

- ①最初は1色のキューブを1つかけておき、その下にかける練習をする。
- ②慣れてきたら2色、3色と練習していく。
- ③集中できるようになったら、7色全部に挑戦する。



色と順番の学習

教員が色々な色のキューブをかけ、隣に同じ順にキューブをかけることもできます。

